

森林に潜む危険

依田林業新聞

常に危険が伴う林業作業。いつ、どんな場所で危険が待ち受けているのか、森林に隠れる危険を学び、対策を知ろう！死亡事故の割合が多いのは、**伐木造材作業**です。令和3年度において、伐木造材作業によって起きた死亡事故は林業作業で起きた死亡事故全体の約65%を占める。それ以外の危険予知活動としての、森林に潜む危険を紹介します。

(表1) 林業における作業別死亡労働災害発生状況(平成29年~令和3年)

項目	平成29年	30年	令和元年	2年	令和3年		計	
					件数	構成比(%)	件数	構成比(%)
A 伐木造材作業	30	18	23	21	19	63.3	111	65.3
B 集運材作業	5	7	1	8	6	20.0	27	15.9
C 輸送作業	2	3	2	1	0	0.0	8	4.7
D 造林作業	0	0	0	2	2	6.7	4	2.4
E その他作業	3	3	7	4	3	10.0	20	11.7
計	40	31	33	36	30	100.0	170	100.0

資料出所：林業・木材製造業労働災害防止協会統計資料

①「落ち葉」

林道には、アスファルトやコンクリートで整備されているものもある。路面で気を付けたいのが「落ち葉」です。水を含んだ落ち葉は、スリップの原因となってしまふ。落ち葉のある林道を安全に走行するために、落ち葉に対しての一番の対策は**走行スピードを抑えること**。スリップしても、容易に車をコントロールし直せる。もうひとつの対策としては、**落ち葉を避けて走行すること**。

②「枯れ木」

近年ではマツ枯れやナラ枯れといった、樹木を枯らす事象が発生して久しい。10年も昔に枯れたマツやナラは当たり前のように林地内に存在している。最終的に立ったまま枯れた木は、どこかのタイミングで倒れてくる。**倒れるのが今でない保証はどこにもないのが現実**。枯れ木への対策として、まずは**周囲の確認**が大切。次に、周辺に枯れ木がそばにあるならば、**樹木の状態がどうなっているかを見極める**。しっかりと芯が残っていて、簡単には倒れなそうなのか。それとも手で押すだけでぐらつくのか。枯れ木の近くで何の作業を実施するにも、簡単に揺れるようであれば、先に伐採するのが望ましい。伐倒時は、枯れ枝が落ちてこないかも同時に考えて処理したほうが良い。

③「鉈」

山では当たり前の様に使われている鉈ですが、**刃物である以上、凶器となる場合がある**。鉈を使いながら歩いていたら、振りかぶった際、鉈が手から滑って飛んでいき、後方にいる人の足を切ってしまうという事故もあります。**(鉈のすっぽ抜け事故)**

なかなか切れない柴に夢中になってしまい、手元をよく見ず鉈を振り下ろした。この事例から学ぶのは、よく切れる刃を使うということ。**切れない刃ほど危ないものはない**。切れない分、人は余計な力を込めてしまいます。切れる鉈を持っている人は、いかにも簡単に柴を切ってしまう。そうすると手元は定まりやすく、事故も起こしにくい。**(自らの指を切ってしまった事故)**

発行所

(有)依田林業
塩山事務所

前向きになれる一言

失敗だけは自分の物、経験したことは自分の財産、次に活かすために行動することが大事

参考資料

FOREST
JOURNAL より

安全対策は面倒な場合も多い。しかし、やり始めて継続できれば習慣となります。安全のためと思って、習慣となるまで続けてほしいと思います。対策をしっかり講じて、作業していきましょう。皆さんどうぞご安全に…